



葦

大阪発達総合療育センター機関紙
第22号

社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

特集：義肢装具部の設立と事業展開について

ごあいさつ

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長
梶浦 一郎

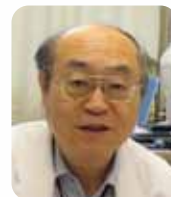


桜の花は散り、若い人達の活躍する若葉の季節になりました。相変わらず日本の女子は強く、逆転でオリンピックバレーに行くことになりました。それ以外は明るいニュースとしては唯一iPS細胞治療が本格化するそうで成功を祈ります。世の中はややもすれば不当に沈みがちですがその風潮に流されることなく毅然として信じる道を進んでいくことを願います。

特集によせて

大阪発達総合療育センター副センター長、
医療型障害児入所施設フェニックス園長

船戸 正久



2007年に梶浦理事長により開発された新しい側弯矯正装具DSB（動的脊柱装具、通称「プレーリーくん」）は、従来の固定型装置に比較して柔軟に背筋を正中に保つことができ、重度の脳性麻痺の方々にも比較的長く装着していただけることが学術的に証明されています。そのため全国的に関心が高まり、他の都道府県の療育施設や病院でも「プレーリーくん」は使用されるようになってきました。今回当センターに義肢装具部が設置され、「プレーリーくん」を中心とした様々な装具の開発など、利用者さまのニーズに対応できる新たな展開を行う予定です。またNMCS（新生児診療相互援助システム）からの在宅移行のため当センターで支援を受けた卒業生の初めての集まりの会「ぴかぴかぶちとまとの会」の様子、別棟にあったお預かり児童発達支援事業所「あおば」から、新たに本院5階「なでしこ」部分に移動した児童発達支援事業「なでしこキッズ」について紹介します。皆さまのご支援を宜しく願います。



義肢装具部の設立と事業展開について

義肢装具部長 梶谷 英文



平成27年1月1日に設立され活動しておりました義肢装具室が今年4月より新しく義肢装具部として格上げされスタートさせていただいております。人員も義肢装具士1名、エンジニア2名、計3名から義肢装具士5名、エンジニア3名、縫製技術者1名。合計9名に増員されました。

義肢装具士が増員できましたので一般社団法人 日本義肢装具士協会への加入を申し込み中であり加入が認められましたら社会福祉法人内の義肢装具士となりますので全国的にも珍しい試みとなります。全国の医療施設や義肢装具士も運営と今後の展開に注目するのではないのでしょうか。

私自身は民間企業で35年間活動いたしておりましたが、これから社会福祉法人の中で活動させて頂くことになりこれまでの民間企業ではできなかった事に挑戦したいと思います。

活動の一つ目は当センター利用者様への義肢装具、福祉機器のサービス向上に勤めて参ります。

従来、義肢装具は民間企業の義肢装具製作所が週に数回、決められた日時に病院を訪問し医師の処方により採寸、採型し自社工場に持ち帰り製作し、仮合わせ 納品し、調整修理があれば工場に持ち帰り作業しておりました。義肢装具の製品が病院と工場の往復が発生しその度に利用者様には病院に足を運んでもらう時間と費用、お仕事や学校を休んでもらうなど負担をお掛けしておりました。今回、当センター内に義肢装具士が常駐する事により義肢装具治療計画が処方された時点から即時に採寸採型し、できるだけ短期間で製作納品し調整修理が発生した場合もセンター内で対応できるよう活動にして参ります。

現在センター内に必要最小限ではありますが義肢装具工作機械の設置工事が行われております。これが完成し稼働開始できれば縫製技術者もセンターに常駐させ今まで預かり持ち帰りしておりました修理も診察などの待ち時間に対応する事も可能になると思われます。現在は大阪市鶴見区にプレーリーファクトリーとして工場を構えておりますが将来的には本格的な機械設備を備えた義肢装具工場をセンター近くに移転させ、より充実したサービスの提供をしたいと思っております。



活動の二つ目は当センターが特許を保持する側弯矯正装具である動的脊柱装具Dynamic Spinal Brace：DSB（愛称プレーリーくん）の普及活動をいたします。現在までに三回DSB基礎講習会を開催し日本全国に30件以上の認定された病院施設と義肢装具製作所ができました。今後も国内国外問わず普及させる活動を行います。

センター内で常時、医療臨床現場の近くで活動できる恵まれた環境の基でセンター内とセンター近くの義肢装具工場設備を充実させる事はもちろんの事、生産体制 開発体制を整え世界に通用する義肢装具の物づくり集団を作りたいと考えています。

活動の三つ目はDSB以外の義肢装具の開発活動を行います。DSBと同じ動的概念で処方製作される股関節装具Dynamic Hip Brace：DHB（愛称グーくん）、短下肢装具のスパイラルブレスならびにグランシータイプAFOなどありますが、これらも当センターのオリジナル性のより高い装具にしたいと思っております。

活動の四つ目は色々な目標を持ち実現させるためには収益事業部門として利益の結果を出す必要があります。

センター外部への活動として民間企業からの引き続きにはありませんがセンター以外の病院施設に義肢装具営業を致します。現在は、滋賀・奈良・兵庫・和歌山・鳥取など得意先として営業させていただいており小児用装具を中心に義肢装具受注活動をしており今後も得意先拡大をしております。

センター内部との連結も収益事業として重要であり現在、エンジニアが訪問リハに同行し障がい児へのファーストアプローチとして義肢装具・福祉用具・バギー・座位保持装置などの提案をさせていただいており将来的に当センターのファンを増やす活動となると思っております。

エンジニアの中に木工技術者がいます。これは早期療育が必要であっても制度的に活用できない障がい児に対してセンターから低価格の立位台（レンタル品もあり）・椅子・斜面台などの製作をしております。この活動の収益性は低いですがQOL向上には必要な器具であり、これも将来の当センターのファンを増やす活動だと思っております。

このような様々な義肢装具を中心とした活動を継続しセンターの収益に貢献します。それと並行して義肢装具士の人材育成もしなければこの活動は継続できません。

義肢装具士法は昭和62年に施行された国家資格であります。民間業者での活動がほとんどで義肢装具士のほとんどが「装具屋さん」とよばれ医療業種の中でも認知度・地位の低い業種かと思っております。今回、社会福祉法人での活動を成功させ義肢装具士の認知度・地位向上に繋がるよう一所懸命張り義肢装具部を運営して参りますので今後ともよろしくご依頼申し上げます。

「なでしこ」からキッズ誕生!

保育士 赤瀬 裕子

2016年4月、大阪発達総合療育センター5Fで「児童発達支援事業 なでしこ」がスタートしました。

「なでしこ」は生活介護事業(18歳以上の方)も行っており、私たち児童なでしこは通称「なでしこキッズ」と呼んでいます。

「児童発達支援事業 なでしこ」は重症心身障がいのある子どもたちが、地域の中で、それぞれの子どもに適した環境のもとで、豊かに楽しく過ごすことができるよう、子どもとその家族に対して生活全般にわたって援助します。

朝、なでしこキッズの部屋の扉を開けると大きなガラス窓からキラキラと明るいお日様が子どもたちを出迎えてくれます。雨の日でもやさしい光が差し込み、気持ちの良い朝が始まります。お日様の光、風の音、雨の音、においなど、季節を身近に感じられることは子どもたち、そして私たち大人の大好きな憩いの場所になっています。

なでしこキッズは午前9時30分より開始しています。一日の定員は5名です。子どもたちはご家族の送りで登園し、午後16時過ぎのお迎えまで過ごします。スタッフは、子ども一人一人のその日の体調や生活リズムを確認し、お友だちと共に一日を楽しく、安全に、有意義に過ごすことが出来るよう、活動や給食、入浴、生活習慣の支援をしています。春のお花見、夏の感触あそび、秋のどんぐり拾い、冬のお正月あそびなど季節に沿ったあそびを取り入れ、お部屋の中では歌や体操、ゲーム、製作など様々な活動を行い、子どもたちはそれぞれのペースで楽しんでくれているようです。最近ではトランポリンが大変好評です。重い障がいのある子どもは自分の思い・意思の表出を他者にわかってもらうという事が簡単なことではありません。しかし、少人数の中でスタッフのサポートを受けながら、お友だちと共にいろいろな遊びや活動の経験を積み重ねる事で自発性、自主性、創造性、社会性を育んでいきます。家族はなでしこキッズ利用開始時、母子分離の保育に不安や心配を訴えられますが、子どもの生き生きとした様子や成長発達を見たり、スタッフからの報告で安心と喜びを感じておられます。

今後子どもたち一人一人の特徴や個性、健康状態などの理解に努め、意思を尊重し、それぞれに適した活動や支援を行い、成長発達を促していきたいと考えています。



大阪には、低出生体重児や生後間もない赤ちゃんが呼吸障害など病気になったときに、新生児専門施設でお互いに助け合うシステム(新生児診療相互援助システム)があります。このシステムに登録している病院を中心に、NICU等に入院したまま「お家」へ帰れない子どもたちが、「お家」で過ごすことが出来るように、医療、看護、療育、リハビリテーションなど様々な専門職が多職種協働で集結し、病院と在宅の中間施設として平成23年より在宅移行支援を開始しました。

平成28年5月までに29名の方がこの支援を受け、22名の方が在宅へ移行しました。在宅で頑張っている方々同志が出会って、色々な役に立つ情報を交換したり、元気の出るお話をし合うということで同窓会を開催しました。

当日は、在宅移行支援利用児10名とその家族22名(内きょうだい8名)、職員28名が参加しました。副センター長 船戸先生から在宅移行支援の思いと経緯についてお話を頂き、各個人に作成して頂いた自己紹介カードをスライドに写して自己紹介を行いました。和田先生のギター演奏で選曲の3曲をみんなで歌い、HPS(ホスピタル・プレイ・スペシャリスト)はきょうだい楽しく遊べる環境や全員参加型の遊びを提供しました。交流Timeは自由に時間を過ごし、全員で記念撮影をして終了しました。

参加されていた山崎佑湊葉(ゆりは)様のお母様よりお手紙を頂きました。一部ご紹介致します。「先日は、在宅支援同窓会を開催していただきありがとうございました。わが家と同じように在宅支援を受けてお家で過ごされているお子さんたち、ご家族に会うことができ、本当に嬉しく元気をもらいました。(略)不安でいっぱいだった佑湊葉との生活は、今では楽しくて楽しくて笑って暮らしています。今の生活のペースにあるのはフェニックスで受けた在宅支援の日々であり、

センター防災訓練の報告

南大阪小児リハビリテーション病院 院長 川端 秀彦



防災訓練がセンターの創立記念日である5月1日行われました。突き抜けるように青い五月晴れの日曜日にもかかわらず120余名もの職員が参加したことは、当センターに勤める個人個人の防災に対する意識の高さの現れだと思います。今回のシナリオは夜間に5階厨房で火災が発生し、初期消火・二次消火に失敗して各病棟共に一斉避難を開始するというものです。模擬患者を含めそれぞれが役割を演じつつも、みなさん実戦さながらの真剣な表情で訓練に参加していました。避難訓練終了後には東住吉消防隊の方々によるはしご車での救出のデモ、放水訓練、消火器による消火訓練、火災煙体験など盛りだくさんの催しが行われました。特に火災煙体験は今回初めてということで、参加希望者が長蛇の列を作るほど人気がありました。私も煙で充満したテントに入らせてもらいましたが、入った途端に方向感覚を失い、火災において煙がいかに恐ろしいものか実感することができました。ゴールデンウィークまっただ中に決行した防災訓練でしたが、近隣の方々の参加もあり非常に有意義なものであったと思います。紙面の関係でここでは書きませんが問題点もいくつか明らかになって、それらの解決を含めて今後の防災に役立てていけたらと思っています。

在宅移行支援同窓会 (ぴかぴか・ぷちとまとの会)の報告

平成28年4月23日(土) 10:30~12:30

当センター5階ホール

地域医療連携部 医療相談室長

近藤 正子



今もなお続けていただけているリハビリや療育、ショートステイの支援だと思っています。先日の同窓会で改めてそう感じました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです」。

また、終了後のアンケートからも、「お友達に会えてよかった」「楽しかった」「次回もお願いします」との嬉しいお言葉を頂き、次回開催についても、座談会やテーマを決めて交流トーク、長居公園へお出かけなどのアイデアも頂きました。

最後に、ご家族より会の名前を募集し、職員投票で「ぴかぴか・ぷちとまとの会」と命名させていただきました。この会の名前には、【どの子どもその家族と自分らしく輝けるように。大きくなるのに自分の幹を太くするのではなく、他のものを支えにして成長し、小さくても元気な赤い実をつけること。在宅で頑張っている子どもたちもたくさんの支えの中で元気に育っている】という家族の思いが詰まっています。

短い時間でしたが、皆さんに喜んで頂けたこと、次回へもつながっていくことに感謝致します。



イベントトピックス フェニックス運動会

6月4日は3階病棟、11日は4階病棟が恒例行事のフェニックス運動会が開催されました。

紅白のチームに分かれ、各競技ともに利用者様、ご家族様、職員一丸で熱い戦いが繰り広げられ、たいへんな盛り上がりでした。閉会式では、日ごろの活動の成果を十分に発揮された利用者様へ大きな拍手と声援が会場から贈られました。



職員研修実施状況

H28年4月～H28年6月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
平成28年4月1日(金)～5日(火) 9:00～17:30	教育研修部	平成28年度新入職員研修 (兼 平成27年度中途採用者研修)	梶浦一郎 理事長 他	42名 随時参加あり	5階ホール
平成28年5月1日(日) 10:00～12:00	災害対策委員会	防災訓練(地震)	東住吉消防署	130名	5階ホール
平成28年5月9日(月) 17:40～19:00	教育研修部	ネパール大地震支援活動報告会	NPO法人シャプラニール 宮原麻季氏、上嶋佑紀氏	48名	5階ホール
平成28年5月27日(金) 18:00～19:00	リハ部・看護部	装具のつけ方のポイント トランスファーのコツ -前編-	リハビリテーション部 田井宏治主任、福島洋祐副主任	70名	PT室
平成28年6月24日(金) 18:00～19:00	リハ部・看護部	装具のつけ方のポイント トランスファーのコツ -後編-	リハビリテーション部 曲洋子副主任、井上伸副主任	35名	PT室

平成28年度永年勤続表彰

平成27年5月2日から平成28年5月1日までの間に勤続20年または勤続10年となる職員に対して梶浦理事長より表彰状・副賞が授与されました。



勤続20年 1名 木村智香 リハビリテーション部理学療法科 副主任 理学療法士

勤続10年 13名	竹本 潔 医務部 部長	医師	篠木和美 療育部3階病棟	生活指導員
	宮嶋民恵 療育部3階病棟 主任	介護福祉士	吉田 努 療育部4階病棟	介護福祉士
	安瀬美紀 療育部4階病棟 主任	介護福祉士	木村 基 リハビリテーション部作業療法科	作業療法士
	藤島隆二 リハビリテーション部作業療法科 副主任	作業療法士	林 真弥 通園部なでこ	介護福祉士
	福島洋祐 リハビリテーション部作業療法科 副主任	作業療法士	竹内直子 通園部なでこ	介護福祉士
	満田宏美 看護部2階病棟	看護師	角脇えり子 あさしお園	保育士
	小村大輔 療育部2階病棟	介護福祉士		

感謝

大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます

〔寄付金と寄付物品〕
一般寄付金

月	寄付者(敬称略)
4月分	4月分楽基金 19件
5月分	5月分楽基金 38件 白光(株)
6月分	大川 敦子 6月分楽基金 12件

寄付物品

月	寄付者(敬称略)	物品名
5月分	匿名	絵本 (数冊)
	匿名	郵便はがき (20枚)
	匿名	郵便はがき (20枚)
6月分	匿名	おむつ (多数)
	オーグス総研社会貢献活動推進室	ノートパソコン (2台)



大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
主として重症心身障がい児者
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
なでこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者・梶浦一郎

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児

〒552-0004 港区夕風2-5-3
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524